

早稲田大学 政治経済学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問は5。 政治と経済の融合が1題で、あとは政治と経済が2題ずつ。「正解は必ずしも1つとは限らない」問題や ×で答える問題が多い。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	市場機構と選挙	問1 : 需給曲線を使った問題は3年連続であり、これに対処できる論理的思考力(応用力)を持つ学生を期待していると言えよう。他は詳しい知識問題もあるが、ていねいな学習をしていれば対応できるはず。	やや難
	選挙制度	選挙は昨年も出題。ドイツで採用の小選挙区比例代表併用制の基本的しくみを知っていると、余裕で答えられたであろう。	標準
	社会権と社会保障	基本的人権を「消極的自由」「積極的自由」に分け、後者から社会権を中心に採りあげている。昨年は知る権利であった。 問3 : 定住外国人に認めたい参政権とは、被選挙権を含まない。こうしたことをその都度確認しておきたい。	やや易
	戦後の国際経済体制	問1 : アルファベットか漢字かの指定がなく、戸惑った受験生が多かったであろう。採点で差を付けるのであろうか。正誤判定では正解の数を指定しているので、幾分は答えやすかったであろう。	やや易
	近年の日本経済	問1 : どんな経済統計をどの官庁が作成しているかを正確に理解しておこう。問2 : アメリカの貯蓄事情を正確に理解しておくことは難しい。ニュースに気を配り、「格差社会」から推測しよう。問3 : 日本のNIDの内容だったら、正答できる受験生は多いはず。問5 : ニュースを見ていれば④・⑦は馴染みのある語句だっただろう。問6 : 国際収支表を正確にチェックしていないとわからない。	難

〔総合コメント〕

いわゆる難問に目が行きがちだが、基本的な問題を取りこぼさないように基礎を固めることが必要である。その上で、過去の問題を解き「ここまで出題されるんだ」ということを実感し、その内容を教科書・用語集・資料集などで確認しながら、基礎・標準的知識に上乘せしてゆくことが必要である。そして新しい事項については、新聞のニュース解説を読む努力を惜しまないことだ。